

## 若手研究者 海外派遣 報告

所属：東京大学 水野秀明

参画事業：次世代がん医療創生研究事業

派遣先：61st ASH Annual Meeting and Exposition  
(第61回米国血液学会)

この度は 61th ASH Annual Meeting and Exposition への参加にあたり AMED 海外派遣支援の機会をいただき誠にありがとうございました。今年はフロリダ州オーランドでの開催で、日本とは打って変わって暑く感じるほどの陽気と晴天に恵まれ、爽やかな気分で学会に臨むことができました。学会会場は都市部から離れていましたが周囲にはホテルやレストランが立ち並び、現地での先生方との交流も楽しむことができました。学会自体は朝から夜まで多数のセッションが並列して開催されており、それぞれのセッションでは海外の第一線で活躍している研究者や研究室に所属する先生方の最新の発表を聞くことができ、研究内容はもちろんのこと、着想やプロセスについてもお伺いして大変有意義な時間となりました。



Fig. 学会会場風景

Chemical Biology のセッションでは RNA m6a 関連蛋白質 METTL3 を標的とした新薬開発において METTL3 阻害作用を有する小分子化合物の同定における立体構造を用いたスクリーニングにより、類似構造をもつ一方で METTL3 特異的阻害作用を有する compounds を複数同定することに成功しており、新規薬剤の開発における確実性を高める意味で参考になる研究成果でした。また、分泌に関与する分子 Sec61 の新規阻害薬 KZR-8834 の解析においてはドラッグスクリーニングにより nM レベルの IC<sub>50</sub> を有する小分子化合物を同定した後、*in vitro* のハイスループットスクリーニング系を用いて感受性株と耐性株を複数取得し、新規薬剤の耐性機序まで解析を行っており興味深い研究成果でした。

一般口演以外にも、テーマごとに焦点を絞ったシンポジウムも多く開催されており、自分の研究分野のみならず新たなトピックスについて勉強するとともによい機会となりました。各日の最後にはポスターセッションがあり、広い会場ではポスター発表の演者と自由にディスカッションを行うことができます。miRNA に着目して AML の予後因子を解析し予後に関連する miRNA の機能を解析した発表があり、まだあまり注目されていない新分野における機能解析の難しさと面白さを議論でき、大変有意義な時間でした。お話しできた先生方とは名刺も交換させていただきました。

このような形で研究者コミュニティーを広げ、今後の共同研究や海外留学の礎とできる本当に良い機会に恵まれたと感謝しております。これらの経験を自身の研究に還元し、より一層よい発表内容を携えてまた参加できるように努めて参ります。重ねてとなりますが、この度は支援頂きまして誠にありがとうございました。